



令和4年度 保護者・生徒・地域の皆さんへ

長野高等学校 学校長だより

(「学校長だより」はホームページにも掲載しています。)

令和5年
No20
2月28日(火)

(3年生の生徒・保護者の皆さんには今号が配布・配信の最終回となります)

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。今後ご健勝とご活躍を！

3年生の皆さんは国公立の2次試験のうち、前期試験を終えています。今後中期試験・後期試験と続くので、まだまだ気が抜けないとは思いますが、**3月2日(木)には卒業式**となります。前号でコロナ対応の3年間を振り返りましたが、皆さんが入学した春には「ステイホーム」から高校生活が始まりました。それでも2年生、3年生となるに従い、徐々にできる範囲が広がって、今年度はほぼコロナ前の状況が実現できるようになりました。卒業式は3年ぶりに**保護者の皆様の人数制限をなくして、在校生(2年のみ)や来賓の皆さんにも参加**してもらいます。また、**校歌斉唱等の歌唱**も行なうなど、コロナ前の卒業式とほぼ同様の形で実施の予定です。

この3年間、校長としてしっかりやってきたつもりですが、**心残り**も多々あります。その一つが「**校歌**」です。私は校歌を聞くと、クラス壁画を描くのに疲れて、昇降口の床にひっくり返っていた時、放送で流れてきた校歌とその時の情景(高1の金鵒祭準備期間)が今でも思い出されます。当時は、金鵒祭準備期間の夜8時に校歌が校舎内に放送されて作業終了を知らせていました。

コロナの影響で、今の生徒さんは校歌を歌う機会や思い入れを作れなかったのも、「行事の度に放送する」とか「金曜日の朝は校歌の放送からSHRが始まる」とか、実践すれば良かったなあ、と後悔しています。3年の皆さんは応援練習が十分にできなかったこともあり校歌が身近でありませんが、**卒業式では合唱班の演奏に続き、歌ってください(高校生の時に歌うのは最初?で最後!)**

さて、卒業後の皆さんの前途には大きな可能性が待っています。どうか自分を信じて困難に立ち向かい、健康で健やかな人生を歩んでもらいたいと思っています。卒業おめでとうございます。

校歌

山また山 柴山徳武 作詞
金鵒の光 近藤次信 作曲
草川 草川 編曲

Moderato quasi allegretto

山また山のはるかたに
そびゆる白馬の雪の峰
真澄める空ぞわれらが命
起てよいざこぞりて
われに 金鵒の光あり

二
草木もなゆる 真夏日に
うずまき流るる 千曲川
とまらぬ力ぞ われらが命
起てよいざこぞりて
われに 金鵒の光あり

三
仰げる空の 大のはまみなく
ふみゆく大地の わはてしなき
ゆたけき心ぞ われらが頼み
起てよいざこぞりて
われに 金鵒の光あり

長野高等学校校歌



(上) 2年次駅伝大会クラス応援旗 (下) 2年次金鵒祭クラス壁画 (左から1組〜) 宮本撮影。





3年次 駅伝大会クラス応援旗（左から1組～）宮本撮影。

3年生の保護者の皆様、在学中のご支援・ご協力ありがとうございました。

お子様の卒業おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まったばかりの1年生入学時には、2カ月にわたる休校期間に、本来学校で行う教育活動の、かなりの部分をご家庭で肩代わりしていただきまして大変申し訳ありませんでした。さらに「時差登校」や「分散登校」など今までに聞いたことも経験したこともないような登校方法への対応や、何かと制限が多い高校生活で、保護者の皆様にとっては、生徒さんだけでなく、ご家族の健康管理にも注意を払うなど、今までになく大変だったと思います。また、公開授業や音楽会、クラブ活動の大会などへの参観・見学が叶わないこともあり、大変申し訳ありませんでした。学校としても、教育活動を維持しながら、コロナ対応を考えましたが、これも保護者の皆様並びにPTAからの多大なご支援とご協力なしにはできない対応でした。改めて御礼申し上げます。

お陰様で、生徒会誌『金鶏71号』の寸言を読んでもみると、生徒の皆さんの多くは、この長野高校での3年間で肯定的に受け止めてくれている様子がわかります。「最初はどうかと心配だった」「クラスや班活での思い出が最高」「素晴らしい友人に恵まれた」「あつという間」「お世話になった皆さんに感謝」などが書かれています。生徒の皆さんの多くは今後一人暮らしをすることになるので、口には出さないまでも、これまで育ててくれた保護者の皆さんに対して、感謝の気持ちを持っているものと思われます。保護者の皆様にとっても子育ての一区切りとなりますが、少しばかりその一端にご協力できたとすれば、教職員一同うれしく思います。ありがとうございました。

大体育館の照明が「LED照明」になりました。また、金鶏会館を見やすくしました。

大体育館の照明が「LED照明」となりました。班活中の生徒によれば「2倍明るいです!」とのこと。また水銀灯とは違い、スイッチオン・オフで即座に点灯と消灯が可能となりました。

正門から、左手の金鶏会館への目線を樹木が遮っていたので、奥の針葉樹を伐採、手前のシナノキ（記念樹）を剪定しました。これで正面入口を入ってから、左手の金鶏会館（旧校舎）と、その象徴であった中央の塔がしっかりと見えるようになりました。



Before



After



水銀灯を外すところです